

ブーリン家の姉妹

2008(平成20)年8月28日鑑賞(試写会・リサイタルホール)

★★★★



監督＝ジャスティン・チャドウィック／原作＝フィリッパ・グレゴリー『The Other Boleyn Girl』（集英社文庫刊）／出演＝ナタリー・ポートマン／スカーレット・ヨハンソン／エリック・バナ／ジム・スタージェス／マーク・ライアンス／クリスティン・スコット・トーマス／デビッド・モリッシー／ベネディクト・カンバーバッチ／アナ・トレント（ブロードメディア・スタジオ配給／2008年アメリカ、イギリス合作映画／115分）

……ナタリー・ポートマンとスカーレット・ヨハンソンがイングランド史上最も有名な（？）姉妹役で初共演！ 男子の世継ぎを巡る政略結婚は『篤姫』と対比すれば面白いが、どろどろした宮廷絵巻は宗教が絡むだけに余計複雑。イギリス国教会の創設を含め、「歴史の作者」となったアン・ブーリンの生きざまをしっかりと勉強してみては……。



2人の序列は？ 出演料は？

ハリウッドの若手美人女優 No.1を争うナタリー・ポートマンとスカーレット・ヨハンソンの2人が姉妹役で共演！ すると、どちらが姉で、どちらが妹……？ またブーリン家とは……？

この映画の売りはまさにそれだが、ブーリン家の姉アンを演ずるのがナタリー・ポートマンで、妹メアリーを演ずるのがスカーレット・ヨハンソン。ナタリー・ポートマンは1981年生まれ、スカーレット・ヨハンソンは1984年生まれだから、年齢的にはその配役で妥当だが、良く言えば知的で戦略的、悪く言えば出世欲が強く計算高い長女アン役と、万事控え目で爵位よりも愛情を選ぶやさしい次女メアリー役には、どちらが適役……？

私はジャスティン・チャドウィック監督の決めたこの配役に異論はないが、ネットに見る岡本太陽氏の映画批評では、「ナタリー・ポートマンの悪女役はかなり新鮮だったが、スカーレット・ヨハンソンがその役を演じた方が実はしっくりきたのではないかと感じる」と書いている。さて、あなたの判断は……？

2大女優の共演となれば、もう1つの私の興味はその序列とギャラ。序列は姉妹だから姉が先というのはキレイ事で、プレスシートにナタリー・ポートマンの名前が先に出ているのは、やはり序列としてはスカーレット・ヨハンソンよりナタリー・ポートマンの方が上ということ……？　すると、2人の出演料はそれぞれ How much ……？

2時間弱でまとめるのは大変

ケイト・ブランシェットが主演した『エリザベス』（98年）と『エリザベス：ゴールデン・エイジ』（07年）の大ヒットによって、1558～1603年在位のイングランド女王エリザベス1世と1553～58年在位のイングランド女王メアリー1世との対立（対決？）はよく知られている。しかし、このエリザベス1世の母親であるアン・ブーリンについては、『1000日のアン』（69年）が描いているくらいで、日本人は馴染みが薄い。ましてや、このアンに妹メアリーと弟ジョージ（ジム・スタージェス）がいたことや、1509～47年在位のイングランド王ヘンリー8世（エリック・バナ）が、まずブーリン家の妹メアリーを愛人とし、続いて姉アンを愛人にしようとした話など日本人はほとんど知らないはず。

この映画はそんなブーリン家の姉妹に焦点をあてた一大王朝絵巻（？）だから、登場人物のキャラやその相関関係の理解が大変。しかも、歴史家たちが「歴史の作者」と呼ぶアンの生涯をたどりながら展開される物語はドラマティックで波瀾万丈だから、それを2時間弱の物語にまとめるのは大変。さて、劇場用映画初監督となる1968年生まれのジャスティン・チャドウィックは、それをどのようにクリア……？

政略派 vs. 安穏派

政治家でも政策が好きな人と政局が好きな人に大きく分かれるが、イングランドの王宮や貴族たちも政略が好きな人と安穏さを好む人に分かれるよう。

ブーリン家の姉妹の政略結婚の絵を描いている政略派の中心人物は、姉妹の母親レディ・エリザベス・ブーリン（クリスティン・スコット・トーマス）の弟であるノーフォーク公爵のトーマス・ハワード（デビッド・モリッシー）。そしてそれに乗っかっているのが父親のトーマス・ブーリン卿（マーク・ライアンズ）と長女のアン。

逆に、母親のレディ・エリザベス・ブーリンはそんな権力争いに娘たちを置きたく

ないと願っているし、次女のメアリーも最初に結婚した商人ウィリアム・ケアリー（ベネディクト・カンバーバッチ）と静かに暮らすことを望んでいるだけ。また弟のジョージもやさしい性格のようで、ジェーン・パーカーと政略結婚させられたり、王宮に召しかかえられたりするのには迷惑そう。

姉妹の確執は？

そんな政略派と安穏派のせめぎ合いの中、アンがヘンリー8世の愛人となり男の子を産めば一族にとって大変な利益になると考えたのが、ノーフォーク公爵。そんな彼の計略を実現するチャンスが訪れたのは、ヘンリー8世が鹿狩りのためブーリン家に2日間滞在すると決まったため。つまり、48時間以内にアンがヘンリー8世を色仕掛けで虜にしてしまえば万々歳というわけだ。

この映画は、ここらあたりの描き方が面白い。えらく張り切っておめかしし、積極的な行動をとったアンだが、それが結果的に裏目に……。しかも、コトもあろうにヘンリー8世が目をつけたのが、妹のメアリーときたから大変。アンの怒りが尋常でなかったのは当然だが、それはメアリーとしてはどうしようもないこと。さて、王の命令によって宮中に召喚されたブーリン家一家5人とノーフォーク公爵たちはどのような対応を……？

「今夜！」とご指名されたメアリーがそれを断れなかったのは当然だが、メアリーの夫ウィリアム・ケアリーも意外にスンナリそれを受け入れたから、この男はもともと根性なし……？

ブーリン家の姉妹 vs. 篤姫、イギリス流 vs. 日本流

今年のNHK大河ドラマ『篤姫』の人気の高いのは私には少し意外。それはともかく、篤姫が生きた幕末の日本は1840～1860年頃だから、ブーリン家の姉妹が生きた1530年頃はそれより約300年前になる。

他方、イギリス王家であろうと徳川将軍家であろうと、最低1人は男の子をつくるのが義務であることは変わりがないし、イギリス王宮や貴族たちの間で政略結婚が当たり前だったことも、徳川時代と同じ。しかし、『ブーリン家の姉妹』と『篤姫』を比較する限り、イギリス王宮より大奥の方がよほど豪華……？

また、ヘンリー8世がアンに対して「俺の女になれ！」と迫るのに対し、アンが

「妹を裏切ることはできない」と、たとえそれが計算づくであっても拒絶し続けるのは立派。なぜなら、大奥に入るよう命じられたうえ、将軍からお声がかかった場合、その女にそれを拒絶する権利などあるはずがないのだから。

そう考えると、そんなアンの行動は立派という他ない。

王妃6人はすごい！

徳川将軍は何人でも側室をおくことができるから、よほど女好きであの方面が強い将軍は何十人も子供をつくったが、それはあくまで側室の子。もちろん、徳川将軍だって正室と離婚するのはそれなりの苦労はあるだろうが、基本的にそれは自由だ。正室と何度も離婚して側室を正室に迎えたという話はあまり聞かない。ちなみに、精力絶倫将軍の代表は11代将軍徳川家斉。ネット情報によれば、彼は特定されるだけで16人の妻妾を持ち、男子26人、女子27人の子をもうけたというからすごい。

これに対して、ヘンリー8世がすごいのは、側室ではなく正室（王妃）を6人ももったこと。ちなみに、それは①キャサリン・オブ・アラゴン、②アン・ブーリン、③ジェーン・シーモア、④アン・オブ・クレーヴズ、⑤キャサリン・ハワード、⑥キャサリン・パーだが、男の子は3番目の王妃ジェーン・シーモアが産んだ、後のエドワード6世だけ。

ちなみに、ヘンリー8世のお目にとまって愛人となったメアリーは、ヘンリー8世から愛され無事男の子を産んだのだが、その時点でヘンリー8世がメアリーと男の子に全然興味を示さなくなったのは一体なぜ……？ そこには純粹にヘンリー8世に愛を捧げているだけのメアリーとは全然違う、アンの計算高いある策略が……。こんな中、姉妹の確執がピークに達したのは当然……。

それにしても、ヘンリー8世が愛人を囲っただけではなくこれだけ王妃をとっかえひっかえしたのは、本当に男の子を産ませたかったためだけ……？

1人の女がそこまで その1——王妃との離婚

アンがヘンリー8世の要求を拒絶し続けたのも大きな驚きだが、1人の女がそこまでやるかと思うことの第1は、身体を許す代わりに王妃キャサリン・オブ・アラゴン（アナ・トレント）との離婚を迫ったこと。不倫している女が嫁持ちの男に対して離婚を迫ることはよくある話だが、「離婚するまで身体は許さない」などと言う女は、

珍しいはず……？

アンがヘンリー8世にキャサリン王妃との離婚を迫ったのは、キャサリンにはもはやヘンリー8世との間に男の子を産む能力がないという切り札を握っていたから。それにしても、あれだけ王を焦らし、遂に王妃との離婚まで決意させたというのはすごい知恵とパワー。こりゃアンは稀にみる悪女？

1人の女がそこまで その2——ローマ法皇との訣別

宗教心の薄い日本人にはわかりにくいですが、中世ヨーロッパ社会ではローマカトリック教会(＝ローマ法王)の宗教的権威が絶対だから、イングランド王といえどもそれに従わなければダメ。今でこそ、離婚は離婚原因さえあれば自由だし、徳川時代は男からの一方的な理由で離婚OKだったが、ローマカトリック教会では離婚は許されていないかららしい。したがって、ヘンリー8世がキャサリン王妃と離婚することはローマカトリック教会との訣別を意味するから、それは大変なこと。そのうえ、何らかの離婚原因をでっちあげなければならないから、ヘンリー8世は大変。

ヘンリー8世を長とする「イギリス国教会」が生まれたのはこんな歴史的経緯によるものだが、これはアンという1人の女にヘンリー8世がそこまで翻弄された結果だから、すごいという他ない。

アンの悲劇は？

山高ければ谷深し。これは株の相場についての格言だが、権力争いの中核でうごめく人間についてもこの格言は妥当する。

アンの絶頂期はキャサリン王妃と離婚したヘンリー8世の王妃となって身ごもり、最初の子供を産んだ時。もっとも、これが男の子ではなく、後のエリザベス1世となる女の子だったことがケチのつき始め。アンは若いのだから、2人目、3人目を懐妊することは可能だが、2番目の子を流産したことによってヘンリー8世の我慢も限界に達していた。既にその頃ヘンリー8世は別の侍女に手をつけていたようで、それが3番目の王妃となるジェーン・シーモア。

この映画では、アンは不義密通と近親相姦の罪に問われて有罪・死刑となるのだが、アンはなぜそんな行動を……？ こちらあたりの描き方は『1000日のアン』(69年)とは大きく異なるが、そこはジャスティン監督の自由な解釈でオーケー……？ それ



「ブーリン家の姉妹」

きょうから TOHO
シネマズ梅田ほかで公開



©2008 Columbia Pictures Industries, Inc. and Universal City Studios Productions, LLLP and GH Three LLC. All Rights Reserved

エリザベス女王の強さの秘密は？

山高ければ合流し。株 將軍徳川家定の政略結 ースカレット・ヨハン
に関するこんな格言が今 婚を画策したがヘンリ ソンだったからややこ
金世界を覆っているが、 一八世への接近を狙った しい。但しメアリーに飽
ブーリン姉妹にもれが のは姉アン・カトリック きると今度は貴婦人に愛
妥当？ トマン。ところが寵 身したアンに「執心だか
島津斉彬は義女篤姫と 愛を受けたのは妹メアリ ら王は身勝手。後宮を含

込みの真偽は？ アンの 運命が天国から地獄へと 急変し、断頭台の露と消 えたのは一体なぜ？ 篤姫は和宮との確執を 乗り越えて江戸城を開城 した？

む英王朝の権力争いの激 したが、アンは歴史に何 しは、大奥を含む幕府 を残したの？ 大奥モノ も華やかだが、ドレスの 美しさでは二人の美女が 夢の初共演をした洋モノ 離婚しアンと再婚するた りなす一人の男をめぐる 会を設立したのは大英断 だが、そこに見える女の テクニックとは？ 王妃となったアンへの 国民の反感が強いうえ、 女児が産まれ、完全な逆 風状態。王の寵愛を取り 戻すための次の策略は？ 他方、近親相姦のタレ 王妃を六人も取ったかえ たヘンリー八世統治下の 英国は弱小国。しかし、 十六世紀後半からスвей ンに代わって英国を一流 国にのし上げ黄金時代を 築いたエリザベス女王は 一体誰の子？ まさに 「あの母親にしてこの子 あり！」なのだ。

にしてもかわいそうなのは、不義密通と近親相姦のお相手とされた弟のジョージだが、この映画でみる限り、2人目の子供を流産してしまった後のアンは一体何を目標そうとしたの……？ また、その不義密通の場を目撃したと告げ口したのは一体ダレ……？ また、その動機は……？ そんなところをしっかりと確認しながら、アンの悲劇を味わいたい。それにしても弁護士としての私の目には、あの時代のあの裁判では、全然まともな審理になっていないことを痛感！

2008(平成20)年8月30日記

大阪日日新聞 2008(平成20)年10月25日